

～みんなが笑顔で過ごせるということ～
～人を大切にすること～



菊陽西小だより

NO.26
R 2. 12. 24
菊陽西小学校
文責：草場ルミ子

12月

校長室の窓から

2020年(令和2年)、いろいろな意味で忘れられない年が終わろうとしています。コロナウィルス感染症の収束を世界中の人が願っています。学校も、コロナの前の生活に戻れたら、どれほど子どもたちが伸び伸びと過ごせるだろうかと思えます。しかし、コロナ禍は、学校生活でも新しい発想を、工夫を、そして心をひとつにするこの大切さを教えてくれました。運動会も、修学旅行や移動教室も、学習発表会もどうすればいいのか、多く、私たちがいかに限られた狭い視点からの考えしかなかったのかを思い知らされました。大変な中にもうれしきこともたくさんありましたよ。個人的には、5月頃「今年の漢字は『密』!」と先生たちに言っていたら、それがピタリと当たって、先生たちに自慢しました。うれしかったです。小さなうれしい! 楽しい! をたくさん見つけましょう!

菊陽町人権子ども集会 2020.12.5

菊陽町人権子ども集会は、今年で36回目になります。例年は、菊陽中学校の体育館に集まり行われていましたが、今年はリモートで開催されました。本校では、6年生が6年1組と6年2組の教室で、5年生が5年1組の教室で、4年生が4年1組で集会に参加しました。児童の参加者は全部で156名でした。また、会議室から「大会宣言文」(案)を人権ハートフル委員会の代表の子どもたちが提案しました。

以下は宣言文の一部です。

相手によって態度を変えたり、グループに入れたい雰囲気をつくったりして友だちの気持ちを傷つけてしまっている人たちがいます。

障がいがあるから、外国にルーツがあるから、「〇〇のくせに」と言って相手のことをよく知ろうともしないで傷つけるような言動をとっている人たちもいます

相手の気持ちや個性などを大切にせずに落書きをしたり SNS などで悪口を書き込んだりする人たちがいます。

言われて心が傷ついたり、自分に自信がなくなったりしている人はいませんか。つらい思いをしている人はいませんか。

あなたの言動で誰かを傷つけてはいませんか。もやもやした気持ちや不安を、誰かにぶつけることではらせていませんか。

関わりたくないからといって見て見ぬふりをしていませんか。相手のことをよく知りもしないで態度変えや勝手な決めつけをしていますか。

この集会で次の三つのことを宣言し、採択されました。

- いじめや差別を他人事ではなく、自分のこととして考え、自分の行動をふり返っていきます。
- 自分の思いを伝え、自分から差別をなくす行動をしていきます。
- お互いのことを知り合い、いじめや差別を許さないなかまをつくっていきます。

大人も子どもも全ての人がこのようなことを意識して生活することが大切だと思います。それは、西っ子人権宣言「みんなであつくりよう明るい笑顔」の目指すところでもあります。

倉田哲也さんを招いて

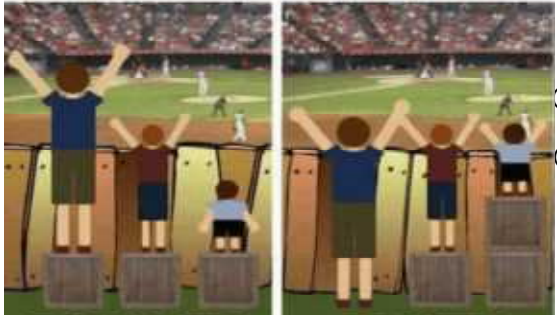
今年は、くまもと障がい者労働センター代表の倉田さんに何度も西小に来ていただきました。職員の研修を低中高に分けて3回。(密を避ける意味もありますが、少人数の方が本音トークができるからです。)5年生の子どもたちにもお話をしてもらいましたし、年明けには3年生の子どもたちへのお話も依頼しています。

私自身、倉田さんのお話は何度もお聞きしていますが、心に残る言葉がたくさんあります。倉田さんの言葉だからこそ伝わる言葉だと思います

下の絵をを使って、「平等」と「合理的配慮」の話もされますが、絵を見ただけで、合理的配慮の大切さが分かります。

平等

合理的配慮



- 障がいは不自由だが不幸ではない。
- 価値のない人間はいない。存在そのものが、尊敬すべきものである。
- 「どうせ・・・」という言葉は「せっかく・・・」という言葉に変える。
- 「負ける」ことは終わりじゃない。「あきらめる」ことが終わりなのだ。
- あなたの一言で仲間を失うことがある。あなたの一言で仲間を救うことがある。

コロナ禍の今、私たち大人が、子どもたちに教えていきたいものです。